

宇宙はパズル

「しかし、主の日は盗人のようにやって来ます。その日、天は大きな響きを立てて消え去り、天の万象は焼けて崩れ去り、地と地にある働きはなくなってしまいます。」(ペテロ第二、三ノ一〇)

天の万象は別訳では自然界の構成要素の意味です。神様は自然界をパズルのように組み合わせられていると思います。地球も宇宙も創造して下さっておられます。その宇宙と地球が今まさに、パズルが剥がされつつあります。各国が競って宇宙軍という愚かな事を考え、話し合えば済むことを争いを宇宙にまで拡大しています。それにより宇宙の解体を早めています。天地創造の父である神様、私たちの罪よりの救い主イエス様、私たちに罪と裁きと義を示して下さる聖霊なる神様、三位一体なる神様、リバイバルを起こし、まず全てのクリスチャンが罪を悔い改め、神様に立ち返えり、続いてノンクリスチャンの方が神様を信じるように導いてください。

現代版国盗り物語

王様に一人の息子がいました。仕事もせず、ギターを弾いて遊んでいました。王様は国民の手前もあるので、知り合いの会社に頼んで雇って貰いました。知り合いは迷惑でしたが、王の息子を利用して、王様が家を建てたり、学校を建てたり、武器を買ったりするときは社員である王の息子を連れて行くので、王の家来は王様の息子の会社に発注せざるをえませんでした。これは作り話でなく、本当の話であり、身近な祖国の話です。獅子は我が子を山の頂上に連れて行き、そこから谷底に突き落とし、鷲は雛を大空に啜えて上り、口から離します。谷底から這い上がり、また、地面に激突せず、自分の飛べるようになるのです。ある人が蟬が殻からも脱皮していたので、殻を広げてあげました。すると殻から出た蟬の羽は弱くて飛べませんでした。親が可哀そうと考えて助けると、かえって子供を不幸にするのです。

新しい皮袋に新しいぶどう酒を注ぐ、

「新しいぶどう酒は新しい皮袋にいれます。そうすれば両方とも保てます。」

(マタイ九ノ一七)

新しい時代がやって来ました。今まで世界が経験しなかった時代です。それは、私たち個人、社会、国家が大改革されるのです。それは暴力革命や暴動ではありません。特に私たちの国は社会革命ではなく、個人個人が変えらなくてはなりません。古い衣に新しい衣で継ぎあてをすると、古い衣は裂けて使い物になりません。古い皮袋に新しいぶどう酒を入れると、皮袋は裂け、中のぶどう酒もこぼれてしまいます。歴史的な社会改革はすべてそのようなものでした。それゆえに長続きせず、元の木阿弥になっています。

今から七〇年前にアメリカの女性ルーズ・ベネディクトが「菊と刀」で日本を紹介しました。日本は恥の文化、西欧の罪の文化であるとのべました。恥の文化とは周囲を見て判断します。罪の文化とは自己の内面を見て判断します。どちらにしても、このままでは世の中は良くなれないと感じています。どうしたら、生きていて良かったと言える時代が

くるか。それは新しい皮袋に新しいぶどう酒をいれること。すなわち、新しくされた心に、人の言葉でなく神の言葉である聖書を受け入れののです。新しくされた私たちの心は、自分が得をすることであっても、神様の言葉に背いていたなら苦しくなるのです。神の言葉を第一として親や兄弟や教師や友人の言葉によって心が成長するのです。日本は七〇年前は配給制度でありました。一人の裁判官は法律を守って闇米を食べなかったため餓死しました。また、二〇年前に東京で韓国の大学留学生がホームから落ちた人を救おうとして列車に挽かれて死亡しました。これも良心に従ったためです。良心にしたがうことは戦いがあります。良心に背いた罪を悔い改めるなら、イエスキリストの十字架の血潮により新しい心に変えられます。現代の多様性と個人主義と絶対主義の入り混じった時代の中に堂々と生きることができるのです。自分の考えとちがっても、人の意見を認めるができます。相手を尊敬し、幸せを願います。そして、見返りもとめず、犠牲を払うことを喜びます。

上級国民と下級国民

世界の一パーセントに満たない人間が世界の富の九九パーセントを牛耳っています。日本では上級国民と下級国民が社会問題になっています。これは社会としてはあまり良いことではありません。気候にしても、日本では春夏秋冬があって生活に潤いを齎せてくれます。しかし今は夏から冬と極端な変化です。それにともない、自然災害が増加して火災保険は一举に二倍近く掛け金が上がりました。それだけ、家屋の被害があったのです。社会生活でも以前は日本一億中流社会と言われました。しかし、今は一部の上級国民とそれ以外の下級国民に分かれました。そして国の指導者は下級国民に、最後は生活保護に頼りなさいと、国民に真の豊かさと安定を与えることを放棄しました。しかし、神様は全ての国民は充実して生活を送るように勧めています。「いまあなたがたのゆとりが彼らの不足を補うことは、いずれ彼らのゆとりがあなたがたの不足を補うことになり、そのようにして平等になるのです。『たくさん集めた人にも余ることはなく、少しだけ集めた人にも足りないことはなかった』とかいてあるとおりです」(コリント第二、八ノ一四、一五)

最高の恵み

今、母親と聖書研究会を開いています。コロナ依頼、面会は二か月以上できていません。耳の遠い母親と電話でやりとりしています。詩篇三三篇を読んでいるとのことで、私がその個所の解説を書いて送るのです。コロナが起こらないとできなかった最高の恵みです。